

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020に基づく 農林水産省の取組状況



平成29年4月23日

農林水産省

サンゴ礁生態系保全計画2016－2020に基づく農林水産省の取組

農林水産業は自然に働きかけ、その恵みを享受する生産活動です。

農林水産省は、生物多様性の保全を重視した農林水産業を推進するための指針として「農林水産省生物多様性戦略」を策定し、生物多様性の保全に資する施策の実施に取り組んできました。

また、サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020に参画し、以下の活動に取り組んでいます。

7-1「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組

◆農地からの流出対策

水質保全対策事業（耕土流出防止型）
多面的機能支払交付金

◆生活排水等の処理

農業集落排水事業

7-3「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組

◆地域主体のサンゴ礁保全対策の支援

水産多面的機能発揮対策事業

重点課題1.

「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組

(1) 水質保全対策事業(耕土流出防止型)

- 侵食を受けやすい特殊土壌が広範に分布している沖縄県及び奄美群島地域において、農用地及びその周辺の土壌の流出を防止するために、承水路や沈砂池等の整備、勾配抑制、法面保護等を実施する事業。

平成28年度は、沖縄県が20地区、鹿児島県が3地区で実施。



水質保全対策事業（耕土流出防止型）の地区事例～石垣市第3地区（石垣市）～

- 本地区は、石垣島南東の轟川上流に位置し、降雨時、農地から表土が下流域の河川や海域に流出、営農に必要となる肥沃な表土が流出するのみならず、漁業や観光業などの地域資源にも被害が発生。
- 本事業により、沈砂池、勾配抑制、植生、排水路、畦畔等を整備することにより、圃場からの赤土流出防止対策を行い、農地の被害を防止するとともに、漁業や珊瑚礁など河川や海域での自然環境の悪化を防止。
- 赤土対策は、ハード事業のみならず、営農対策や地域活動等による継続的な維持管理の取り組みが重要かつ不可欠。本事業を契機として、農家のみならず、地域全体として赤土対策への関心が高まり、営農対策等の活動が行われている。

1. 事業概要

ほ場勾配を抑制するとともに、地表水の流出を抑制するための植栽や畦畔の設置、さらに排水路と沈砂池を整備したことにより、耕土流出量が減少

・ 沈砂池2基、勾配抑制A=4.2ha、植生工L=3,304m、排水路工L=11,847m、畦畔工L=1,781m

2. 事業による効果

本地域では、本事業により農地からの耕土流出量は約32%減少。しかし、土木対策のみならず、営農や地域活動を組み合わせた総合的、継続的な対策が必要。本事業の実施を契機として、営農対策や地域活動の展開に広がっている。



対策前は降雨により耕土流出があったが、、、



勾配抑制、畦畔設置により流出が抑制



対策前は流出した耕土が海まで流出していたが、、、



数日後

流出した地表水を沈砂池でキャッチし、
耕土を沈砂池内で沈降させている

更に営農対策等の



地域の自主的な取組によるグリーンベルトの植え付け活動
(沖縄、ふるさと百選認定地区)

継続的な対策が必要



地域住民等に対して、赤土問題と赤土対策の必要性の理解促進を図るため、地元高校生が寸劇や子供向け絵本作成など、様々な活動を実施（沖縄県八重山農林高校、平成27年度日本水大賞を受賞：主催日本水工委員会）

(2) 多面的機能支払交付金

地域共同で行う、多面的機能を支える活動や、地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図る活動を支援。

平成27年度は、鹿児島県の4町40組織及び沖縄県の18市町村28組織において実施。

○ 農地維持支払

【対象活動】

- ・ 農地法面の草刈、水路の泥上げ、農道の路面維持等の地域資源の基礎的保全活動
- ・ 農村の構造変化に対応した体制の拡充・強化、保全管理構想の作成 等



農地法面の草刈り



水路の泥上げ



ため池の草刈り



農道の路面維持

○ 資源向上支払

【対象活動】

- ・ 地域資源の質的向上を図る共同活動
（水路、農道、ため池の軽微な補修、農村環境保全活動の幅広い展開等）
- ・ 施設の長寿命化のための活動



水路のひび割れ補修



農道の窪みの補修



植栽活動



ため池の外来種駆除

美しい海を守る耕土流出防止の取組

ぎのざそん
宜野座村農地・水・環境保全組織（沖縄県宜野座村）

- 当地域は、こう配が急なほ場において、大雨のたびに土壌が流出し、耕土が減少しており、また、この耕土が海に流出することで、貴重な珊瑚の生息地となっている美しい海が赤色に染まり、自然環境や水産業に悪影響を及ぼしている。
- このため、農業者及び地域住民が危機意識を持ち、地域で定期的に農地パトロールを行い、排水路や沈砂池の土砂を農地に還元している。また、亜熱帯地域に生える月桃（げっとう）によるグリーンベルトの植栽・管理 も行っている。総面積は630m²であり、県内の約3割を占めている。
- 加えて、グリーンベルトの管理作業で発生した刈草は、チップにしてマルチング材として活用し、これによりほ場が保護され、赤土流出防止に更なる効果が発揮されている。

【地区概要】

- ・取組面積 471.8ha
（畑 451.4ha、草地 20.4ha）
- ・資源量
開水路 13.7km、農道 53.6km
ため池 2箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、自治会、
青年会、婦人会、子供育成会 等
- ・交付金 約10百万円（H26）
資源向上支払（共同）

排水路・沈砂池の土砂を 農地へ還元

降雨後の海の様子（赤土流出）



排水路の土砂の浚渫

梅雨入前や、台風前などに巡回をし、優先順位をつけて浚渫作業を実施。

グリーンベルトの設置による耕土流出防止の取組で「美しい海へ」

①グリーンベルトの設置



月桃（げっとう）の植栽



月桃（げっとう）によるグリーンベルト
（総面積630m²）

②刈草をチップにして マルチング材として活用



月桃（げっとう）のチップ加工



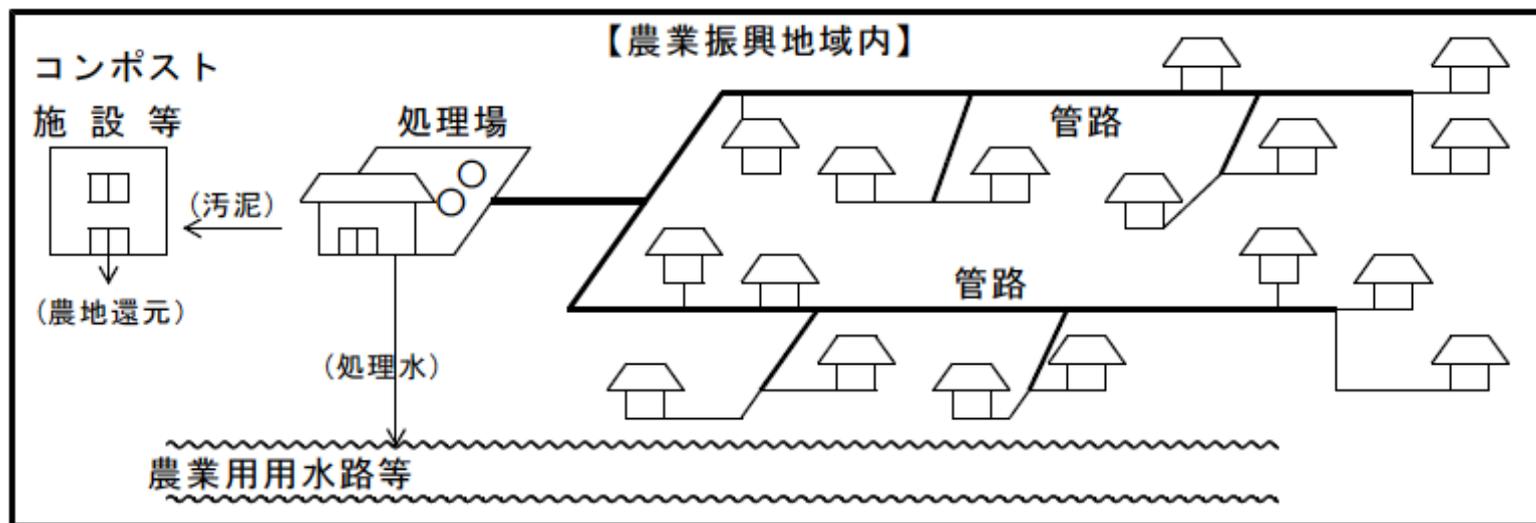
耕土流出防止のため
ほ場末端部にマルチング

(3) 農業集落排水事業

生活排水等による水産動植物の生育環境の悪化に対する、集落排水施設などの整備を通じた陸上からの水質負荷低減の取組み。

平成27年度までに全国で約5,100施設が供用されており、平成27年度は全国約220箇所未整備地域の整備や老朽化施設の更新整備を実施。

農業集落排水事業のイメージ



整備前



整備後



重点課題3

「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組

水産多面的機能発揮対策事業

漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資するサンゴ礁の保全など地域の活動を支援。

下記内容について支援が可能

サンゴ礁の保全	サンゴの種苗生産
	サンゴの移植
	食害生物の除去
	保護区域の設定
	浮遊・堆積物の除去
	その他特認活動※
	モニタリング
上記とあわせて実施する教育・学習の取組	

※県知事の特認を受ければ支援が可能。



【事業の仕組み】

水産庁

交付



地域協議会

- 都道府県、市町村、漁業者団体、学識経験者等により構成
- 活動組織の指導、交付金の管理等

交付



活動組織

- 漁業者、地域住民、学校、NPO等で構成
- 活動項目を選択し、実施

平成28年度は、高知県2件、鹿児島県2件・沖縄県8件等において実施。

取組事例①

沖縄県：石垣市サンゴ礁保全対策活動組織

サンゴを捕食する有害生物(オニヒトデ)を駆除しサンゴ礁を保全



食害生物(オニヒトデ)の駆除

取組事例②

沖縄県：伊江島海の会

試験礁から切り出し断片化したサンゴを移植用プレートに取付け、活動組織メンバーが海中に移植



海中に移植する様子